

付 ハルビン総領事館投石事件

訂正通知

昭和5年5月1日 在ハルビン八木総領事より

幣原外務大臣宛（電報）

ハルビン日本総領事館投石事件犯の中国側軍

警による逮捕について

ハルビン 5月1日後発

本省 5月2日前着

第一四七號

五月一日午後六時五十分約四十名ノ暴徒三々伍々領事館事務所前ニ集リ準備シ來リタル瓦石ヲ投シテ事務所及二階官舍ノ窓硝子ヲ八十五枚ヲ破リ退散セントスルヲ當館警備ノ

爲本日特ニ出張シ居リシ支那軍警等ニ於テ三十二名ヲ取押ヘ目下支那警察署ニ拘引取調中ナリ暴徒ノ約三分ノ二ハ朝鮮人男女ナル如ク共產黨ニ關係アル反帝同盟ノ連（脱）首謀者ナリト推察サル詳細追報ス

上海、北平、奉天、吉林、南京ニ轉電シ齊齊哈爾、長春、満洲里ニ暗送セリ

取り調べ状況について

ハルビン 5月2日後発
本省 5月3日前着

第一四九號

往電第一四七號ニ關シ

支那警察ニ拘引セラレタル三十一名（前電三十二名ハ誤）ハ全部朝鮮人（内五名婦人）ニシテ逃亡セル者モ大多數鮮人ト認メラル支那警察ニ對シテハ昨夜來右犯人ノ引渡シヲ要求シ居ルモ先方ハ言ヲ左右ニ託シテ之ニ應セス本日午后ニ至リ本件交渉ハ交渉員ニ於テ擔任スルコトトナリタリトテ逃ケ居ルニ付目下交渉員署ト折衝中ナリ支那側ニ於テハ奉天ニ伺ヒ出テ目下其ノ指令ヲ待チ居ルモノノ如シ取調ノ

我が方のハルビン日本総領事館投石犯人引き渡し要求を中國側拒絶について

ハルビン 5月3日後発

本省 5月4日前着

第一五一號

往電第一五〇號ニ關シ

三日午後本官特派交渉員ヲ訪問シ犯人ニ對スル支那側取調ノ結果ヲ尋ネ且其ノ引渡ヲ督促セル處交渉員ハ今日迄ノ取調ニ依レハ犯人ハ十四、五歳ヨリ二十五歳迄ノ青年ニシテ内女子五名アリ何レモ日本政府ノ鮮人ニ對スル虐待壓制ヲ憤慨シ其ノ意思表示ノ爲日本領事館前ニ集マリタルモノニシテ他意ナシト言ヒ内數名ハ投石セルヲ自白セルモ他ハ之ヲ否定シ居レル趣ナリ尙取調報告ハ警察管理署ヨリ入手次第其ノ寫ヲ送付スヘキコトヲ約セリ又犯人引渡ニ付テハ全部支那ニ歸化シ居ル旨申立テ居ル處

事實ナレハ引渡出來サル旨申シ居リタルニ付本官ハ當方ハ鮮人ノ歸化ヲ認メサルコト及本件犯人ヲ右ノ如キ口實ヲ以テ引渡ササル時ハ重要ナル交渉問題ヲ惹起シ双方ノ爲頗ル面白カラサル事態ヲ招來スヘキコトヲ詳細説示セル處交渉

（轉電及暗送先往電第一四七號ノ通）

二日哈爾賓來電第一四七號

末段（脱）ノヶ所ヘ「中」ヲ挿入アリタシ

ハルビン総領事館投石事件に対する中國側の

在ハルビン八木総領事より

幣原外務大臣宛（電報）

ハルビン日本総領事館投石事件犯の中国側軍

警による逮捕について

ハルビン 5月1日後発

本省 5月2日前着

第一四七號

五月一日午後六時五十分約四十名ノ暴徒三々伍々領事館事務所前ニ集リ準備シ來リタル瓦石ヲ投シテ事務所及二階官舍ノ窓硝子ヲ八十五枚ヲ破リ退散セントスルヲ當館警備ノ

爲本日特ニ出張シ居リシ支那軍警等ニ於テ三十二名ヲ取押ヘ目下支那警察署ニ拘引取調中ナリ暴徒ノ約三分ノ二ハ朝鮮人男女ナル如ク共產黨ニ關係アル反帝同盟ノ連（脱）首謀者ナリト推察サル詳細追報ス

上海、北平、奉天、吉林、南京ニ轉電シ齊齊哈爾、長春、満洲里ニ暗送セリ

取り調べ状況について

ハルビン 5月2日後発
本省 5月3日前着

第一四九號

往電第一四七號ニ關シ

支那警察ニ拘引セラレタル三十一名（前電三十二名ハ誤）ハ全部朝鮮人（内五名婦人）ニシテ逃亡セル者モ大多數鮮人ト認メラル支那警察ニ對シテハ昨夜來右犯人ノ引渡シヲ要求シ居ルモ先方ハ言ヲ左右ニ託シテ之ニ應セス本日午后ニ至リ本件交渉ハ交渉員ニ於テ擔任スルコトトナリタリトテ逃ケ居ルニ付目下交渉員署ト折衝中ナリ支那側ニ於テハ奉天ニ伺ヒ出テ目下其ノ指令ヲ待チ居ルモノノ如シ取調ノ

我方のハルビン日本総領事館投石犯人引き渡し要求を中國側拒絶について

（轉電及暗送先往電第一四七號ノ通）

二間島事件関係

176 昭和5年5月3日 在ハルビン八木総領事より

幣原外務大臣宛（電報）

員ハ歸化鮮人ノ問題ハ支那側ニ於テモ甚々迷惑ヲ感シ居り
強テ之ヲ庇護セムトスル意思ハ毛頭ナキニ付警察管理署ノ
取調結了次第奉天及南京政府ニ指令ヲ仰キ何分ノ儀回答ス
ヘキ旨答ヘタリ
右會談ニ依リ當地支那當局間ニ於テハ奉天及南京ノ承認ヲ
得テ本件犯人ヲ歸化人トシテ裁判ニ附シ當方ニ引渡ササル
コトニ内議決定セルコト看取サレタリ
尙交渉員ハ當地方ニ於ケル鮮人及支那人間ノ左傾團體ニ付
テハ支那當局ニ於テ頗ル注意シ其ノ調査取締ニ銳意努力中
ナル旨反覆説明セリ

轉電及暗送先往電第一五〇號ノ通

177 昭和5年5月7日 在ハルビン八木總領事宛（電報）

ハルビン日本總領事館投石犯の我が方への引
き渡し方嚴重交渉と事件当日の同館警備狀況

回電方訓令

本省 5月7日後6時40分発 第五九號

178 昭和5年5月8日 在ハルビン八木總領事より

ノト思考セラルルニ付當方参考迄ニ當日ノ貴館警戒手配並
「メーデー」ニ對スル警戒ヲ必要トスルニ不拘當日宋巡査
ノ葬儀ヲ執行セサル可ラサリシ事情等御申報相成度シ

ハルビン總領事館投石犯人の我が方引き渡し

方中國側に申し入れられたき旨奉天總領事宛

要請について

ハルビン 5月8日後発 本省 5月8日後着 第五九號

渡し要求は不当との中國側回答について

ハルビン 5月9日後発 本省 5月9日後着

第一六〇號

往電第一五八號ニ關シ

當地交渉員代理ハ八日附公文書ヲ以テ「メーデー」ノ當館

襲撃事件ニ際シテノ處置逮捕人數被逮捕者ノ供述振等ニ付
往電第一五一號通リノ通知ヲ爲スト同時ニ右被告ニ付テハ
既ニ長官公署ニ報告シ合法ノ處置ヲ執ルヘキ旨敍述シ且當
日犯人逮捕速刻當館警察白神警部以下數名力支那警察分署
ニ至リ犯人引渡シヲ要求シタルニ關シ之カ態度ヲ横暴ナリ
トシ本邦力當地ニ警察ヲ常置スルハ違法ニシテ又右引渡強
要ノ事實ハ支那主權ノ侵害ナリトテ同警部ノ處分及ヒ公式
謝意ノ表明ヲ逆撫的ニ要求シ越セリ右ニ對シ本官ハ即日警
察官常置ハ條約上及ヒ慣行上今更批議セラルヘキモノニ非
サル事白神警部ハ單ニ犯人引渡ヲ要求セルノミニテ主權侵
害乃至強迫等ノ事實無キ旨回答シ置キタリ

外務大臣、吉林へ轉電セリ
179 昭和5年5月9日 在ハルビン八木總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

日本側のハルビン日本總領事館投石犯人引き

貴電第一四七號、第一四九號乃至第一五一號ニ關シ本件ノ
如キ朝鮮人ノ集團的且計画的行動ハ在支鮮人全般ノ取締上
ヨリ見ルモ不問ニ附シ難キ所ナルニ付犯人ノ引渡方ニ付テ
ハ此上トモ嚴重支那側ニ交渉セラレ度尚貴電報告ヲ綜合ス
ルニ支那側ニ於テハ朝鮮人ノ不軌ノ計画ニ關スル情報ヲ得
貴館保護ノ為メ軍警ヲ配置シタリトノコトナルヨリ見レハ
「メーデー」ニテモアリ支那側トモ連絡シテ充分警戒シ居
ラレタルモノト推測セラルルニ不拘本件ノ發生ヲ見タルハ
甚々遺憾ニ存スル處貴電第一四九號ニ據レハ當日貴館ニ於
テ宋巡査ノ葬儀アリ事件發生ノ當時ハ署員出拂ヒ居タルヤ
ニ存セラレ若シ右ニ依リ一時タリトモ警戒上手薄トナリタ
リトセハ右ハ聊カ油断ノ嫌無シトセス將來注意ヲ要スルモ
ノト思考セラルルニ付當方参考迄ニ當日ノ貴館警戒手配並
「メーデー」ニ對スル警戒ヲ必要トスルニ不拘當日宋巡査
ノ葬儀ヲ執行セサル可ラサリシ事情等御申報相成度シ

180 昭和5年5月9日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)ハルビン日本總領事館投石犯人引き渡し方覚
書手交について奉天 5月9日後発
本省 5月10日前着

第一八七號

本官發哈爾賓宛電報第一三號ノ一

貴電第一〇一號ニ關シ

九日森岡ヲシテ王交渉員ヲ訪問セシメ事件ノ大要並犯人引渡要求方ヲ認メタル覺書ヲ手交シテ張長官ヨリ哈爾賓當局へ至急引渡訓令方ノ交渉セシメタル處王ハ事件ハ哈爾賓交渉員ノ所轄事件ニシテ奉天交渉員ニ關係ナク且哈爾賓交渉員ハ直接吉林張作相ノ指揮ヲ奉スル筋合ナルト同時ニ自分ハ本件ニ關シ何等事件ノ真相ヲ承知セサルヲ以テ一應哈爾賓交渉員ヘ電報照會ノ上事件ノ性質及日本側トノ交渉經過ヲ確カメタル後考慮スルコトトシ度キ旨答ヘタルヲ以テ折返シ森岡ヨリ普通ノ事件ナラハ哈爾賓及奉天交渉員ハ素ヨリ管轄並直屬長官ヲ異ニスト稱シ得ヘキモ五月一日ヲ目的

本官發哈爾賓宛電報第一三號ノ二

當方ノ要求ヲ斥ケラルハ其ノ意ヲ得サルニ付哈爾賓ヘ電報照會セラルコトハ御隨意ナルモ先ツ以テ一應我方ノ要求ヲ張長官ノ耳ニ入レ至急引渡方盡力願ヒ度ク苟モ帝國ノ官衙ヲ襲撃シタル帝國犯人ノ引渡ヲ受ケ得サルカ如キハ哈爾賓總領事ノ極メテ苦痛トスル所ナルヲ以テ至急誠意アル御取計ヲ得度キ旨反駁の申入レヲナシタルニ王ハ納得シテ御要求ノ通張長官ト協議スル旨應酬セル趣ナリ

尙支那側ハ犯人カ二重國籍ナリトノ口實ヲ以テ我方ノ要求ヲ拒絶スヘク豫期セラル處之ニ對シ我方ニ於テ二重國籍ヲ承認セスト主張スルコトハ從來當地方ニ於ケル朝鮮人ノ發展助長ノ爲内地ニ於ケル土地ノ所有權及借地權獲得上努

メテ鮮人ノ二重國籍ヲ利用シ來レル當館ノ立場ニ鑑ミ本件交渉ニ限リ二重國籍ヲ認メストノ主張ヲ以テ真向ヨリ交渉スルコトハ他ニ種々面白カラサル影響ヲ與ヘ大局上面白カラスト思考シ從テ右交渉ニ當リテモ特ニ此ノ點ニ觸ルルコトヲ避ケシメ置キタルニ付御含相成度シ

外務大臣、吉林ニ轉電セリ

181 昭和5年5月9日 在ハルビン八木總領事より

幣原外務大臣宛

ハルビン日本總領事館投石事件当日の同館警備状況につき報告

機密第五二九號

昭和五年五月九日

(5月19日接受)

在哈爾賓

總領事 八木 元八〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

暴行學生引渡シ交渉ノ經緯並ニ暴行當時ニ於ケル

我方警戒狀況ニ關スル件

五月七日發貴電第五九號後段御訓令ニ係ル「メーデー」ニ

180 昭和5年5月9日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

トスル滿洲各地共產黨陰謀暴露事件ニ關シテハ豫テ張長官ヨリ哈爾賓其ノ他重要地方官宛嚴重警戒方特ニ電訓セラレタリト信スヘキ理由アルノミナラス哈爾賓交渉員ニ於テモ本件善後措置ニ關シテハ張長官ヘ指示ヲ仰ク要アリト公言シ居ル事情モアリ哈爾賓ニ於テ地方的解決困難トナリ奉天總領事ノ援助ヲ求メ來レル場合ニ王交渉員力前記ノ如キ口實ヲ以テ

前死亡シタル遺骸ヲ支那馬車及鐵道ニテ長途移送シタル爲メ三十日午後七時當地ニ着シタル際ニハ既ニ腐敗ニ傾キ取扱上非常ニ困難ヲ感シタルヲ以テ遺族及親戚等ノ意向ヲ斟酌シ當夜柩邊ニ通夜セシメ翌一日早朝ヨリ諸般ノ準備ヲ整ヘ午後四時告別式舉行ニ決定シタルモノニシテ其ノ間警察署ハ署長ヲ始メ絶エス市中ノ狀況視察ニ努メ各團体ノ示威遊行斷念ノ事實ヲ確知スルニ至リ初メテ當日ノ勤務員ヲ除キ全員會葬シタルモノナリ右申報ス

182 昭和5年5月13日

在吉林田村總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

ハルビン日本總領事館投石犯人を中國側が審理処分するは當然との鍾特派員談について

吉林省 5月13日前發
本省 5月13日前着

第二八號

哈爾賓宛往電第一號ニ關シ

本十二日鍾特派員ニ面會ノ際襲擊事件ニ言及シ八木總領事ノ要求通り犯人ヲ引渡スコト双方ノ爲ナラスヤト勸説シタ

183 昭和5年5月24日

在ハルビン八木總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

哈爾賓、奉天、上海、支ニ轉電シ南京、間島、齊齊哈爾、滿洲里、長春ニ暗送セリ

中國側に対するハルビン日本總領事館投石犯人引き渡し要求継続および犯人釈放の際逮捕方に関し請訓

付記 五月二十七日作成

「哈爾賓總領事館投石犯人引渡要求ニ關スル件」

ハルビン 5月24日後發

本省 5月24日後着

第一七二號

往電第一六九號ニ關シ

當地交渉員ハ廿二日附公文ヲ以テ該犯人力歸化鮮人ナルヲ理由トシテ當方要求ヲ拒絶シ來レリ本邦トシテハ將來ノ鮮人取締關係ヲ別トスルモ法理上支那側回答ヲ容認スル立場ニ非サル次第ナルカ從來ノ經驗ニ依レハ此ノ種要求ノ貫徹シタル例無ク常ニ建前トシテ引渡シ要求ヲ繼續スルニ止マリ居レル處進テ本件要求ヲ強固ニ固執セントスルモ何等力

漠然タル論據ヲ以テ之ヲ爲シ得レハ兎ニ角然ラサレハ勢ヒ支那側ノ鮮人歸化ニ關スル國內法ヲ云爲スル事トナルト同

時ニ當方要求ト先方拒絶ノ基礎ニ理論上ノ差異無キ爲要求

ル處鍾ハ犯人等ハ歸化シ居リ且ツ支那ノ治安ヲ紊シタル以上支那側ニ於テ之ヲ充分審理處分セサルヲ得ス又彼等今同ノ舉ハ日本政府ノ反省ヲ促ス意圖ニ出テタルモノニテ政治犯ノ性質ヲ有スルヲ以テ引渡シ難キ旨答ヘタルニ依リ本官ハ鮮人ノ歸化ヲ持出ス時ハ問題力面倒トナルヘキコト及政治犯云々ト云フモ襲撃其ノモノハ政治犯罪ニアラサルコトヲ指摘シ八木總領事ノ要求ヲ容レテ素直ニ問題ヲ解決シテハ如何ト說キタルモ結局本件ハ既ニ自分ヨリ外交部へ又特別區長官ヨリ東北政務委員會ニ於テ報告請訓ノ結果兩者ヨリ夫々「犯人ヲ法院ノ審理ニ附スヘキ旨ノ指令ニ接シタルヲ以テ自分等トシテハ此ノ上如何トモ致シ難シト述ヘタリ尙鍾ハ來吉ノ用務ニ關シテハ哈爾賓ニ於ケル事務引繼完了ノ次第ヲ張主席ニ報告ノ爲ナリト云ヒ數日中ニ歸哈ノ豫定ニテ奉天ニハ赴カサル旨語レリ

リ夫々「犯人ヲ法院ノ審理ニ附スヘキ旨ノ指令ニ接シタルヲ以テ自分等トシテハ此ノ上如何トモ致シ難シト述ヘタリ尙鍾ハ來吉ノ用務ニ關シテハ哈爾賓ニ於ケル事務引繼完了ノ次第ヲ張主席ニ報告ノ爲ナリト云ヒ數日中ニ歸哈ノ豫定ニテ奉天ニハ赴カサル旨語レリ

ノ次第ヲ張主席ニ報告ノ爲ナリト云ヒ數日中ニ歸哈ノ豫定ニテ奉天ニハ赴カサル旨語レリ

ハ爾賓、奉天、上海、支ニ轉電シ南京、間島、齊齊哈爾、滿洲里、長春ニ暗送セリ

（付記）

哈爾賓總領事館投石犯人引渡要求方ニ關スル件

昭和五年五月廿七日

八木總領事ノ意見ノ如ク我方ノ主張ニ基キ引渡要求ヲ適宜

繼續スルヲ適當ト認ム但支那側力犯人釋放ノ際領事館側ニ於テ逮捕スルノ措置ハ面白カラサルヘシ

朝鮮人多衆聚合シ且計畫的行動犯人ニ對シテハ在支朝鮮

人全般ノ取締上同犯人ノ引渡ヲ受ケ我方ノ手ニテ嚴重處

分ヲ要スルハ勿論ナルモ支那側力引渡ニ應セサルニ於テ

ハ實際問題トシテ我方ニハ此等不逞鮮人ノ集團的行動ヲ

取締ル丈ケノ警察力ヲ有セサルヲ以テ支那側ノ警察力ヲ

藉ラサルヘカラサルハ已ムヲ得サル次第ニテ又朝鮮人ハ

支那ニ歸化シ甘シテ其ノ法權ニ服シツアル其ノ間「デ

リケート」ナル關係モアレハ飽迄引渡要求ノ貫徹ヲ期ス

ルコトハ相當考慮ノ餘地アルモノト思考セラル依テ我方

トシテハ從來ノ主張ニ基キ引渡ノ要求ヲ繼續スルト共ニ

一面支那側ノ犯人ニ對スル處置ヲ監視スルヲ適當トスヘ

シ

支那側力犯人釋放ノ際逮捕ノ措置ハ朝鮮人ハ日支官憲ノ

交渉不成立ニ依リ二重ノ處分ヲ受クルノ結果トナリ且ハ

朝鮮人關係事件ニ關シ更ニ問題ヲ重ヌルノ原因ヲ作ルコ

トハナルヘキニ付釋放後同鮮人ノ行動ヲ監視スルコトハ

スルヲ適當トスヘシ

184 昭和5年6月12日 在ハルビン八木總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

ハルビン日本總領事館投石釈放犯の逮捕着手

について

ハルビン 6月12日前発
本省 6月12日後着

第一九二號

往電合第八六號ニ關シ

其ノ後支那側ニ於テ審理ノ結果本件犯人中八名ヲ有罪トシ

他ハ全部釋放シタル旨情報ニ接シ直ニ之力逮捕ニ着手セル

モ彼等ハ田舎道ヲ迂回シ巧ニ足跡ヲ晦シタルカ如シ目下引

續キ捜索中

上海、北平、奉天、吉林へ轉電セリ

185 昭和5年6月14日 币原外務大臣より
在ハルビン八木總領事宛（電報）

釈放されたハルビン日本總領事館投石犯の檢

擧見合せ方訓令

本省 6月14日後2時発

機密第六七七號

昭和5年6月十八日

在哈爾賓

（6月30日接受）

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

當館襲撃鮮人ニ關スル件

曩ニ本年五月一日「メーデー」ニ際シ當館ヲ襲撃セル犯人

ヲ支那側力釋放シタル件ニ關シテハ往電第一九二號及本月

十四日附機密第六六九號拙信ヲ以テ報告シ置キタルカ其經

過ニ關シ當館警察ノ調査報告スル處左ノ通り重ネテ報告ス

ラレタル者ノ行動ヲ充分監視スルニ止メ一方犯行ニ關スル

證據ヲ固ムルト共ニ今後不逞行動ニ出テタル際検挙スルコ

トハセラレタシ

上海、北平、奉天、吉林ニ轉電セリ

~~~~~

186 昭和5年6月18日 在ハルビン八木總領事より  
幣原外務大臣宛

中國側のハルビン日本總領事館投石犯釈放の

経緯について

奉天總領事來電ノ件朝鮮人力ニ重國籍ヲ利用スルハ已ム  
ヲ得サルヘキモ法理上ノ我方從來ノ主張ハ之カ為更ムル  
ノ要ナカルヘシ

要スルニ本件ハ理論ヲ楯トセスニ支那側ノ諒解ヲ求メ引  
渡ヲ受クルノ措置ヲ講スルヲ可トスヘシ

本件審理内容及犯人等ノ動靜ヲ調査スルニ努メ殊ニ釋放時

ニ於テ之ヲ逮捕セント種々苦心ヲ重ネタルモ支那側ハ當方

ノ注目ヲ虞リシモノカ釋放當日特ニ犯人等ヲ郊外舊哈爾賓

驛ニ護送シ同地ニ於テ放遣シタルモノノ如ク曩ニ買收シ置

キタル監獄看守ノ急報ニ依リ午後八時署員ヲ召集シ舊哈爾

賓ニ追跡セシメタル時ハ已ニ犯人等力阿城縣ニ向ヒタル後

ニシテ遂ニ之ヲ逮捕スルニ到ラス

尙ホ支那側ハ高等法院ニ於テ未釋放者八名ヲ審理ノ結果之

ヲ騒擾罪ト認メ管轄違ノ言渡ヲナシ事件ヲ特別區地方法院

ニ移シ引續キ審理中ナルモ未タ有罪判決ヲ與ヘス一說ニハ

吉林高等法院ニ移送スル豫定ナリトモ傳ヘラレ引續キ内查

中ナリ

本信寫送附先

在支公使 在北平首席

在奉天、上海、吉林各總領事

187 昭和5年6月23日 在ハルビン八木總領事より  
幣原外務大臣宛

中国側のハルビン日本總領事館投石犯釈放に

ス

本信寫送附先

在支公使、在北平首席、

在上海、奉天、吉林各總領事

(別紙甲號)  
中第五四號

昭和5年6月十四日

在哈爾賓

日本帝國總領事 八木 元八

外交部駐哈吉林特派員 鍾 篩殿

拜啓陳者五月一日「メーデー」ニ際シ當館ニ來襲セル暴行  
鮮人學生引渡ニ關シテハ本月十一日附第五一號拙信ヲ以テ  
貴方特別區高等法院ニ於テ處理ノ結果該犯人中八名ヲ有罪  
トシ他ハ全部釋放セル趣ナルハ事實ニ候哉若シ事實ナ  
リトスレハ特別區高等法院力有罪又ハ釋放ノ處分ニ出テタ  
ル判定上ノ理由及有罪及釋放ニ決セラレタル犯人暴行學生  
ノ氏名等至急當方へ御回示相煩度此段照會得貴意候 敬具

(別紙乙號)

中華民國十九年六月二十日

照會第五三號

外交部駐哈吉林特派員 鍾 篩

地方法院における審理結果報告

188 昭和5年6月26日 在ハルビン八木總領事より  
幣原外務大臣宛

(電報)

ハルビン日本總領事館投石犯八名の同地特別

敬具

機密第六九四號

昭和五年六月二十三日

在哈爾賓

總領事 八木 元八〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「メーデー」暴行鮮人學生ニ對シ支那側ノ措置振ニ關

スル件

本件ニ關シ本月十四日附機密第六六九號拙信報告ノ次第モ  
アル處其後支那側ニ對シ別紙甲號寫ノ通申入レタルニ今般  
別紙乙號譯文ノ通回答越シタルニ付此段不取敢御報告申進

対する我が方抗議と中國側回答

(6月30日接受)

豫テ當地特別區地方法院ニ於テ審理中ナリシ當館暴行鮮人學生八名ハ本月廿五日秩序妨害罪ニ依リ内二名ハ懲役八個月ニ其ノ他ノ六名ハ同<sup>(ア)</sup>八個月ニ處セラレタリ詳細郵報ス

北平、上海、奉天、吉林へ轉電セリ

### 三 安東密輸問題

189

昭和5年1月6日

在安東宇佐美(珍彦)領事より  
幣原外務大臣宛

中國海關の安東滿鐵付屬地内密輸入防止用出張

所開設要求を拒否經緯につき関東長官宛報告

機密第二號

昭和五年一月六日

(1月9日接受)

在安東 領事 宇佐美 珍彦 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年一月六日附機密關第一號

太田關東長官宛往信寫別紙茲ニ送附ス

件名

一 密輸入防止ノ爲メ稅關出張所増設ニ關スル件

(別紙)

機密關第一號

昭和五年一月六日

在安東 領事 宇佐美 珍彦  
關東長官 太田 政弘殿

密輸入防止ノ爲メ稅關出張所増設ニ關スル件

當地支那海關ニ於テ密輸入防止ノ爲江岸ニ稅關出張所ヲ一個所増設ノ意図ヲ有シ居ル次第八客年十二月十日附<sup>(届出)</sup>機密第一號

三八一號大臣宛拙信初段及同月十八日附<sup>(届出)</sup>機密第三九一號同

信末段中ニ申進置タル通リナル處元來本件ハ前任福本稅關長ニ於テ豫テヨリ六道溝鴨綠江岸所在採木公司貯木所建築物ノ一部力密輸入防止ノタメ設置スヘキ稅關出張所ノ位置

トシテ好適ナルヲ認メ同建築物ヲ借受度シトノ希望ヲ有シ居タルヲ現稅關長「ベツセル」トモ協議ノ上今回日本

政府ニ於テ密輸入取締ヲ援助スルコトニ確定シタルヲ機會ニ之ヲ實現セムトスルニ至リタルモノニシテ之力爲先般來

海關側ヨリ直接採木公司ニ對シ右家屋ノ借受方交渉シタル處公司ヨリ該建物ハ既ニ使用確定シ居ルモノニシテ他ニ貸